

県外派遣審判員報告書

作成日 平成30年 3月 3日

大会名	第38回全九州中学春季バスケットボール選手権大会	会場	別府アリーナ
期間	平成30年2月23日(金)～2月25日(日)	報告者	駒田 万季

スケジュール

期日	内容	場所
2月23日(金) 19:00	審判会議	別府アリーナ
2月24日(土) 9:30～	大会1日目	別府アリーナ
2月25日(日) 9:30～	大会2日目	別府アリーナ

レクチャー・審判会議の内容

(審判会議の内容)

- ◎監督会議の伝達
- ◎夏の大会(大分県)は初日から3POで行う

実技	割り当て	仲井真(沖縄県2位)対大分(大分県1位)	主・副	相手	小迫(熊本県B級)
----	------	----------------------	-----	----	-----------

○ゲーム前(プレカンファレンス)

- ・両チームの特徴やキーマンはどこなのかということ、1Pの序盤で見極めていくこと。
- ・悪い手の使い方やポストプレイに対して早い段階で基準を示していくこと。
- ・プライマリエリアを責任を持って確認していく中で、2人の協力の仕方について。
- ・TOとのコミュニケーション、ベンチの管理、コミッショナーとの連携について。

○ゲームの実際

1Pは緊張しており小迫氏に助けをもらうケースが特にあった。飛び込みリバウンドや抜く時の体の寄せ方がどうだったかを2人で常に話をし確認しながら進めることはできたが、捉えきれないケースもあった。前半のうちに同点に追いつき、後半もこのままの展開で進んでいくと予測されるため、再度キーマンの確認とファール、基準等の話をした。トラブルもなく試合展開はスムーズに進めることはできたが、足元、手元の判定基準など1試合通して同じように笛に出来なかったのが、示していけるようにしなければと思った。

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 棕園氏(B) 級

1Pは緊張して固くなっているのを見てわかったが、後半は緊張がとけてきているように感じ、序盤でアウトオブバウンズの確認が本当に出来ていたのか?と思うケースがあった。リードの時にボールの動きに合わせて中に入りすぎて近いために、現象を捉えられずにいたので、広がって見た方が良いのではないかとアドバイスをいただいた。リードでもトレイルでもプレイによっては体の向きがボール中心になったりしているのが、体の向きについてアドバイスをいただいた。

全体を通しての感想

今回初めての県外派遣を頂き、会場の雰囲気に飲みこまれず、これまでしてきたことを表現していくことを意識して臨みました。最初は緊張してしまい思うように笛に出来ない時間帯もありましたが、途中からはいい緊張を保ちながらゲームを行うことが出来ました。他県の方と実際に吹く機会も少ない中で、カンファレンスの時間を長めにしコミュニケーションを取りながら試合に臨むことができました。判定の基準を一貫して通していけるように、今後県内でたくさん経験を積んでいきたいと思いました。

最後に運営等大変お世話になった大分県審判部の皆様、今回このような機会を下さった県審判委員の皆様へ感謝申し上げます。とてもいい経験になりました。ありがとうございました。